西高校生レポート

西高農場は、地域とともに先端技術の研究・研修、憩い、自然とのふれあいの『場』として開放しています。

～最優秀賞を受賞～

西高の畜産部門では、繁殖牛二頭を飼育し、飼料の改良や取捨選択、牛の飼養管理技術を学んでいます。

7月26日には、由利本荘市で農業を学ぶ高校生の家畜審査競技会が実施されました。この大会は、成牛や仔牛の外貌を比較・観察し良い部分と悪い部分を見分ける目を養うことを目的とした競技会です。

西高からは、6人参加しました。生徒達は個人毎に、子牛5頭の中から、骨格・肉付きなどの部位を観察し、優れた牛を選択しました。その後、審査員からは審査する際のポイントなどが解説され、審査の結果、肉牛の部・最優秀賞に西高校の総合学科1年の大山翔生（おおやましょうい）君が選ばれたほか、同学科1年の依田隆利（よだ　りゅうと）君も入賞しました。

▶一頭一頭を厳しく審査

▶表彰される大山くん

～待望の白神ねぎ収穫～

農業技術センターと共同で試験栽培を行っている特産品の白神ねぎを、7月15日に収穫しました。

能代西高校では、平成22年から白神ねぎを対象に地域農業の担い手育成プロジェクトに取り組んでいます。実際に苗から生育管理を行い、販売までの実戦感覚を養うことで、地域農業に貢献できる生産者の育成を行っています。JAが栽培作型の確立を目指している、「7月早取りねぎ」の栽培も同校の圃場で行われています。

◀収穫したねぎを機械で皮むきをする生徒たち

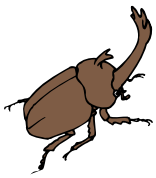
▶丁寧に根きりをして、商品化まで行います

生徒達は圃場から収穫したねぎを、コンプレッサーで皮むきした後、丁寧に根切りを行い、テープで束を作っていきました。

今回収穫したねぎは、チャレンジショップや柳町商店街、能代七夕のイベントである天空バザールでも販売されました。

～農場の恵み～

西高農場で幼虫から育てたカブトムシを7月23日に能代市向能代のさんさん保育園の園児たちにプレゼントしました。

総合進学系列3年生の幸坂君、田中君、石川君、長岡君が1年間かけて行う課題研究の一環で幼虫から飼育をし、成長の様子を観察、研究しています。虫かごに土やエサを入れて用意していた園児たちは、カブトムシを見ると「かっこいい」、「すごい」と歓声をあげて喜びました。

園児からお礼の言葉をもらった生徒は、「大事に育ててきたカブトムシなので、仲良く遊んでね」と話していました。